

國際法外交雜誌

第116卷 第1号

2017年5月

論 説

- 国際裁判における客観訴訟論 神戸大学教授 玉田 大 1
- 抵触法における準拠法選択と
外国国家行為承認との関係について 名古屋大学教授 横溝 大 29

資 料

- 判例研究・国際司法裁判所
カメルーンとナイジェリア間の領域と海洋境界事件
(反訴に関する命令・1999年6月30日)(訴訟参加に関する命令・1999年10月21日)
国際司法裁判所判例研究会 54
- 人種差別撤廃条約適用事件(ジョージア対ロシア)
(仮保全命令・2008年10月15日)(先決的抗弁判決・2011年4月1日)
国際司法裁判所判例研究会 69

紹 介

- 松田竹男・田中則夫・薬師寺公夫・坂元茂樹 編集代表
『現代国際法の思想と構造Ⅰ 歴史、国家、機構、条約、人権』
『現代国際法の思想と構造Ⅱ 環境、海洋、刑事、紛争、展望』
東北大学教授 植木俊哉 99

会 報

- 追悼 109

国際法外交雑誌

第116巻 第2号

2017年8月

論 説

- 国際社会における法規範の多元性と国際私法 神戸大学教授 中野 俊一郎 1
- 公序のヨーロッパ化および普遍化 同志社大学教授 林 貴美 22
- 持続可能な開発のトランスナショナル・ガバナンス
——権威の多元化と新たなガバナンス・モード—— 名古屋大学教授 三浦 聡 44

研究ノート

- EU法の一般原則の特徴と意義 明治大学准教授 佐藤 智恵 75

資 料

- 判例研究・国際司法裁判所
核軍備競争の停止と核軍備の縮小に関する交渉義務事件
(マーシャル諸島対英国)(先決的抗弁判決・2016年10月5日) 国際司法裁判所判例研究会 97

紹 介

- 福永有夏 著『国際経済協定の遵守確保と紛争処理
——WTO紛争処理制度及び投資仲裁制度の意義と限界』
大阪市立大学教授 平 覚 115
- 坂元茂樹 編著『国際海峡』 上智大学教授 兼原 敦子 122

会 報

- 意見聴取の実施とご協力のお願ひ 128

國際法外交雜誌

第116卷 第3号

2017年11月

論 説

- 國際法における禁反言の概念 学習院女子大学教授 櫻井大三 1
- 制限免除主義の下での裁判権免除の判断基準
——雇用契約事案の分析を通じた再検討—— 静岡県立大学准教授 坂巻静佳 34
- 非国際的武力紛争への外国干渉と国際的武力紛争の概念
静岡大学准教授 川岸伸 60
- 国家管轄権と国際私法上の連結
——ドイツにおける特別連結論、公法抵触法、経済抵触法——
中央大学教授 檜崎みどり 92

研究ノート

- 立作太郎以後
——戦時期外務省における法律顧問設置構想—— 日本大学助教 高橋力也 117

紹 介

- 田中則夫 著『國際海洋法の現代的形成』 法政大学教授 森田章夫 138
- Michael N. Schmitt (ed.),
*Tallinn Manual 2.0 on the International Law
Applicable to Cyber Operations* 防衛省防衛研究所主任研究官 河野桂子 143

会 報

- 國際法学会2017年度(第120年次)研究大会 149
- 一般財団法人國際法学会
2017年度第1回(通算第15回)評議員会(定時) 190
- 一般財団法人國際法学会
2016年度第4回(通算第26回)理事会(通常)～
2017年度第2回(通算第29回)理事会(臨時) 190
- 個別報告公募のお知らせ 195
- パネル公募のお知らせ 196
- 主要文献目録における外国語文献の収録について 198
- 第4回小田滋賞選考経過および授賞式の開催 199
- 第50回安達峰一郎記念賞 201

國際法外交雜誌

第116卷 第4号

2018年1月

論 説

19世紀東アジアと
近代國際法の国家中心主義の形成 國際教養大学准教授 豊田 哲也 1

国連法と EU 法の相克
——ラディカル多元主義の理論構造とその実践的意義——
近畿大学准教授 加藤 陽 20

研究ノート

人道法と人権法の調和的解釈の新たな可能性
——欧州人権裁判所2014年ハッサン対英国事件判決を契機に——
宮崎公立大学准教授 田村 恵理子 49

書 評 論 文

移行期の正義と法の支配
——法の支配の二側面をめぐる議論—— 立命館大学助教 小阪 真也 77

資 料

国連國際法委員会第69会期の審議概要 國際法委員会研究会 87

解説・日本の國際法判例（12）——2014（平成26）年——
「日本の國際法判例」研究会（第2期） 129

総 目 次 169